



一番うれしいことと、一番の自慢

園長 野中 泉

この何年か、大学の先生や養成校の先生方とお話しする度にお聞きするのが、教員免許をとっても先生にはならない、保育士免許をとっても保育士にならないという学生さんが、年々増えているというお話しです。私自身も、時々保育学科の学生さんの授業にお邪魔することもあるのですが、クラスの中で実際保育士になろうと思っているのは全体の半分くらいという状況も珍しくありません。

もちろん、保育士の仕事はうれしい楽しいばかりではありません。「子どもと遊ぶのが好き」だけで続けていけるような簡単なものではないことも言うまでもありません。（もちろん、学校の先生も然りですよね）それでも、私は、単にリクルート的な意味合いだけでなく、学生さんたちに「保育園の仕事は、ほんとにいい仕事ですよ」と毎回言わすにはいられません。それは、苦しい、辛い、その向こう側に、やっぱり深い喜びや、楽しさがあるからです。

その中でも一番うれしいことのひとつは、卒園した親子が進級や結婚などうれしいことがあった時にも、不登校や病気など辛いことがあった時にも、アトムを思い出し訪ねてきてくれることです。先日の保護者会共催のバザーにも、たくさんの卒園児とその親たちが顔を見せてくれて、ほんとうにうれしく思いました。「久しぶり元気だった？」と声をかけあう中には「結婚した」「子どもが生まれた」なんていうビックリニュースを届けてくれた大先輩の卒園児たちもいましたが（まだ、その子たちをよく知る担任が何人も残っていることもアトムですね）、去年、一昨年と最近卒園したクラスの子もたくさん来てくれていていました。「久しぶり、大きくなったね」とあちこちで声をかえられ少し恥ずかしそうにしている子どもたちとの再会ももちろんうれしいことですが、「実は、お兄ちゃんの反抗期で困ってるんや」とか「夫婦の深刻な危機やねん」など、会わなかつた数年などなかつたことのように、いきなり深い事情を話しあじめる卒園保護者たちの姿にアトムと共に過ごした5年・6年の積み重ねは、ここにつながるんだなと改めて、思わずにはいられません。「ああ、実家に帰ってきたみたい」「また、困ったらくるわ」と口々に言ってくれたその中の何人かは、在園時には何度か保育士とおおげんかもし「こんな保育園やめてやる！」と怒鳴った人たちでもあったことも、なんとも感慨深いのです。

全国的な保育士のなり手不足の中、アトムは、リクルート的にはかなり不利です（笑）。だって、1年365日で完全休日は年末年始の5日間だけ。日曜日も祝日も、朝7時から夜10時まで開いている園です。しかも、親との関係はなかなかに濃くめんどくさいこともたくさんです。なんていう条件は、今の若い学生さんには、ブラックな職場だと一番に大きな×をつけられそうです。それでも、あきらめず私は保育士を目指す学生さんたちに会うたびにこんな話をします。「アトムの保育士は、そのほとんどが、実はアトムの保護者もあります。新卒で入職した子が結婚をし子どもが生まれたら、みんなアトムに自分の子をいれます。保護者としてアトムに会って、その後資格をとってアトムの保育士になった人もいます。卒園児の親もいたら実は7割、8割がアトムの元保護者です。現役でアトムの保育士でもあり保護者でもある人も毎年何人もいます。ずいぶんややこしいでしょ？でも私は、これがアトムの自慢だと思います。だって、ぐちゃぐちゃな内情を知って、うれしい楽しいばかりではない日々を知って、それでもなお、ここで働く保育士たちが、自分の子もこんな保育園で育てたい正在を考えているということ。これは、やっぱりうちの自慢以外の何ものでもないと思うのです」。